

ニューノーマルでの「大学間学生交流のあり方」に関する
アンケート調査へのご協力依頼

令和3年2月
留学生教育学会
大学間交流調査チーム*

交換留学、短期プログラム（サマースクール）、Double Degree、Joint Degree 等、大学間の留学交流は、高等教育グローバル化の重要な要素となってきました。

しかし、コロナ禍によって、各大学そして学生は、海外留学の中断や中止、延期、さらには募集や応募の取りやめを余儀なくされてきました。今後自由な人の往来が可能になった時期に向け、そういった留学交流の「再開」に向けた見通しや手続きは、国内外の大学関係者の間で共有されているのでしょうか。コストやリスクに配慮しつつも、高等教育のグローバル化を止める事は出来ません。ニューノーマルでの大学間交流のビジョンを各国・各大学で共有する第一歩として、幅広い意見集約に取り組みます。

【本調査について】

- 米国、豪州、欧州、韓国なども対象とした国際調査の一環として実施されます。国際比較のため、選択式の設問が主体で、回答時間は10-15分を要します。
- 学生自らがコストやリスクを負う「学位留学」ではなく、大学等が主体的に取り組むべき「大学間の学生交流」に主な焦点をあてています。
- 現状（ファクト）よりは、主として近い将来に対する見通し（ビジョン）や企画（プラン）を問う設問が中心です。そのため、各大学等での高位の意思決定者やその意図をよくご存じの関係者からの回答が望まれます。
- 記入前に質問項目や回答オプション等をチェックしていただくために「全体マップ」も用意しております。参考になさってください。
- 海外研究者や研究機関・ネットワークなどと連携し、ニューノーマルでの大学間交流について、例えば「オンラインとオンサイトでの等数交換のあり方」など、「世界で受け入れ可能な共通的なルール」を共同提案することを目的とします。
- 感染症収束後の「共通的なルール」を提案していくにあたり、日本の高等教育機関の立場や利益をその提案に反映させることを目指しています。

【調査概要】

- Web 調査（システムとしては REAS**を使用しています）
- 選択式質問、一部自由記述があります。
- 言語：国内向け調査は日本語で行います
- 期限：令和3年3月中旬（12日頃）までに記入をお願いします。

【調査体制】

海外調査（準備状況）

- 米国：IIE（Institute of International Education 会員校 1300 校）を窓口として、全米での調査を調整中です。そのほかにも NAFSA（Association of International Educators）の研究部門等とも連携しています。
- 欧州：EAIE（European Association of International Education 会員数 8000 人）の研究部門を窓口として、当初はイタリア、ドイツなどでの調査を調整しています。ドイツ学長会議（HRK）を通しても高位の意思決定者に質問を行う予定です。
- 韓国：KAIE（Korean Association of International Educators）韓国各大学の「国際部長級」の方々を中心に質問を送付予定です。
- 豪州：IEAA（International Education Association of Australia）既存のデータを参照しながら、来年度に入ってから調査実施について調整中です。

国内調査

- 東京外国語大学、東京都立大学、お茶の水女子大学、信州大学、および大阪大学で留学生教育に携わるメンバーによって構成された「大学間交流調査チーム*」が、上記諸団体・機関に共同調査を呼びかけました。国内調査も担当いたします。

【調査サイト全体マップ】

https://jaise.org/new_normal/survey/questionlist_J.pdf

【調査サイト**】

<https://reas3.ouj.ac.jp/reas/q/68764>

【お問い合わせ先】

joint-intl-research@ciee.osaka-u.ac.jp

【註】

*「大学間教育交流のニューノーマル；各種プログラムの再定義」20KK0052 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)) 2020-2023 研究代表者：近藤佐知彦（大阪大学）

** REAS（リアルタイム評価システム）：<https://reas3.ouj.ac.jp/cgi-bin/WebObjects/top>